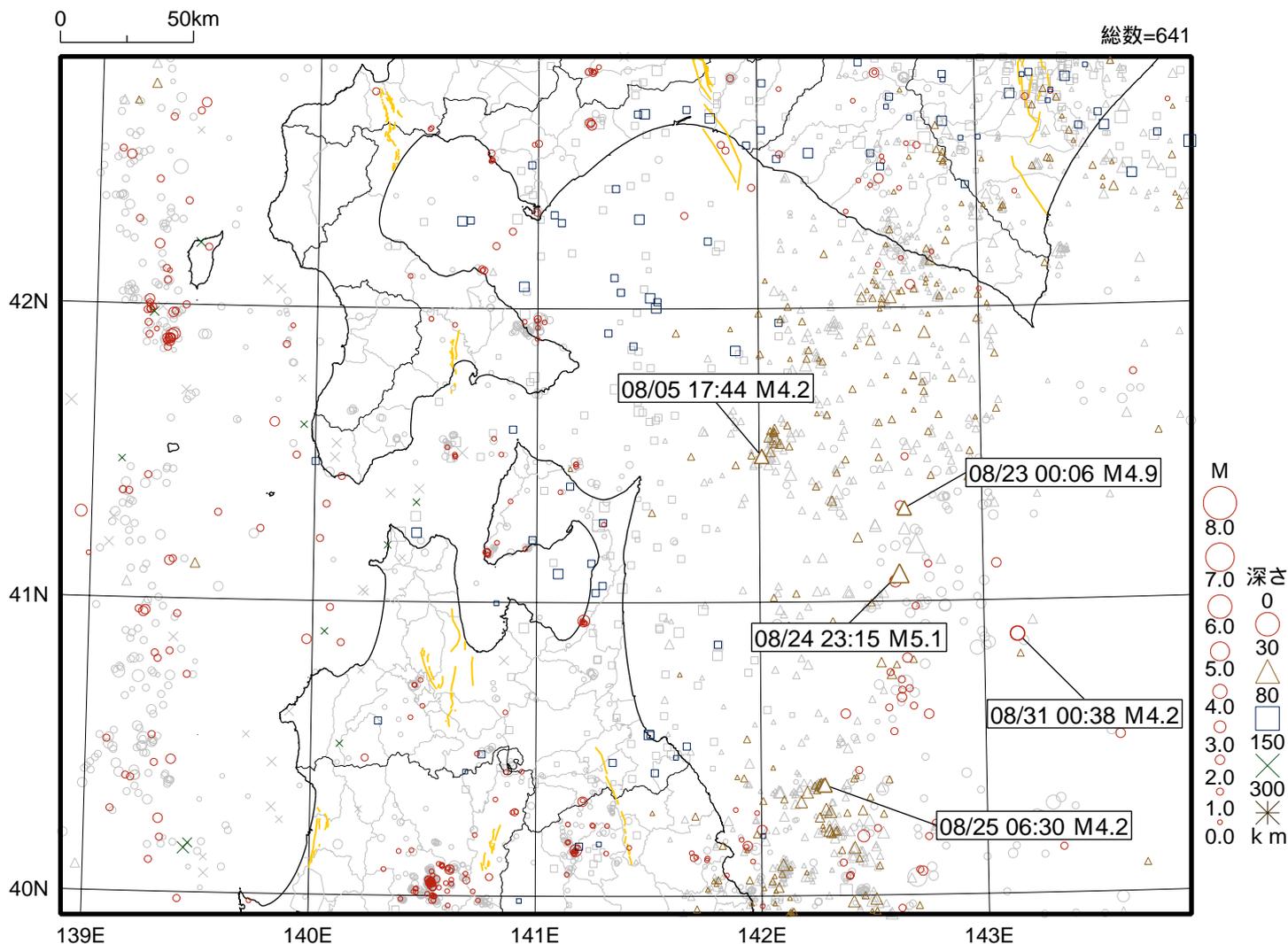


# 渡島・檜山地方の地震活動図

2018年8月1日～2018年8月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

## 地震概況(2018年8月)

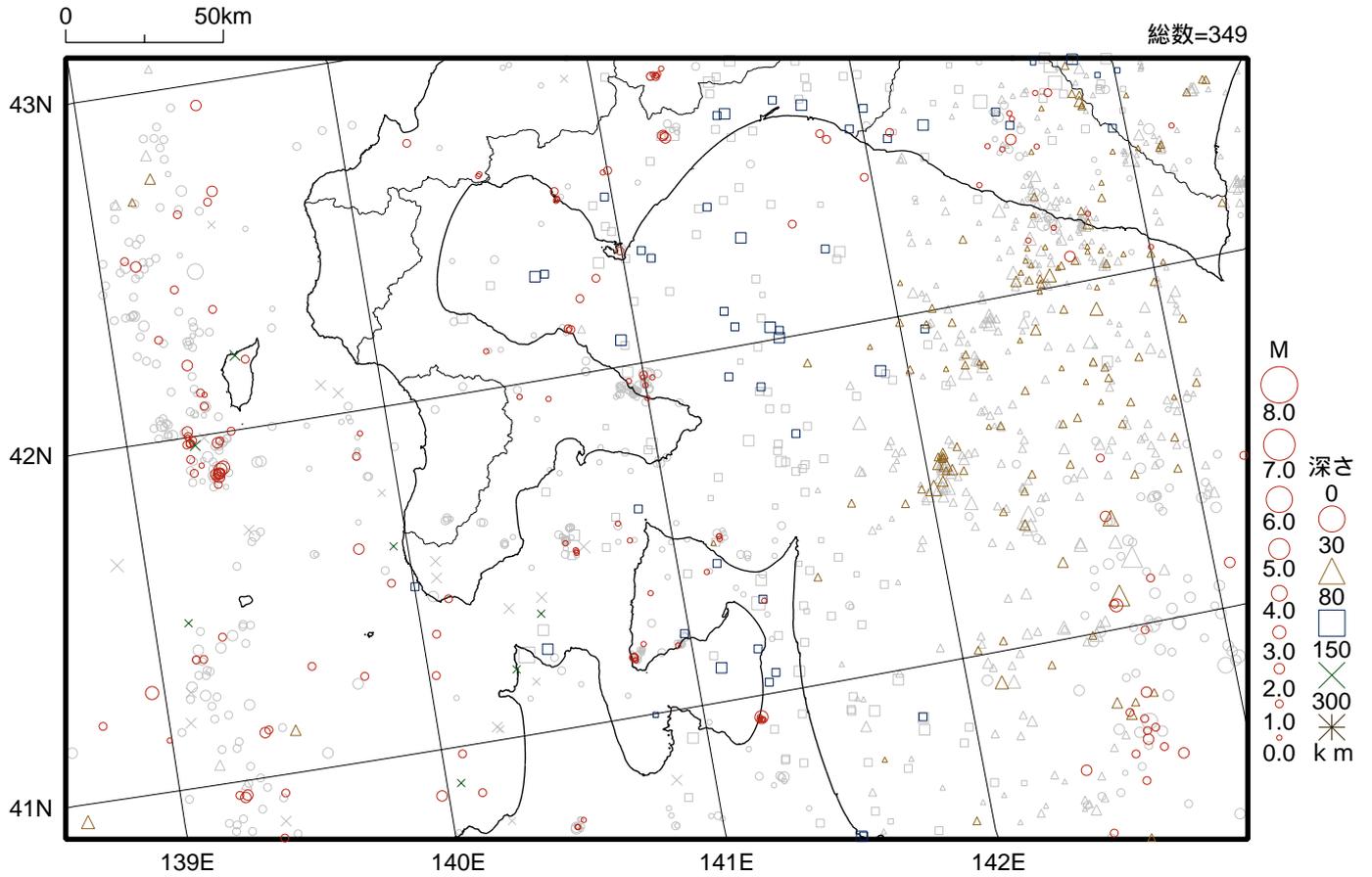
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回(前月は9回)発生しました(「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

23日00時06分、青森県東方沖の地震(M4.9、深さ35km)により、函館市で震度2を観測したほか、鹿部町、木古内町で震度1を観測しました。

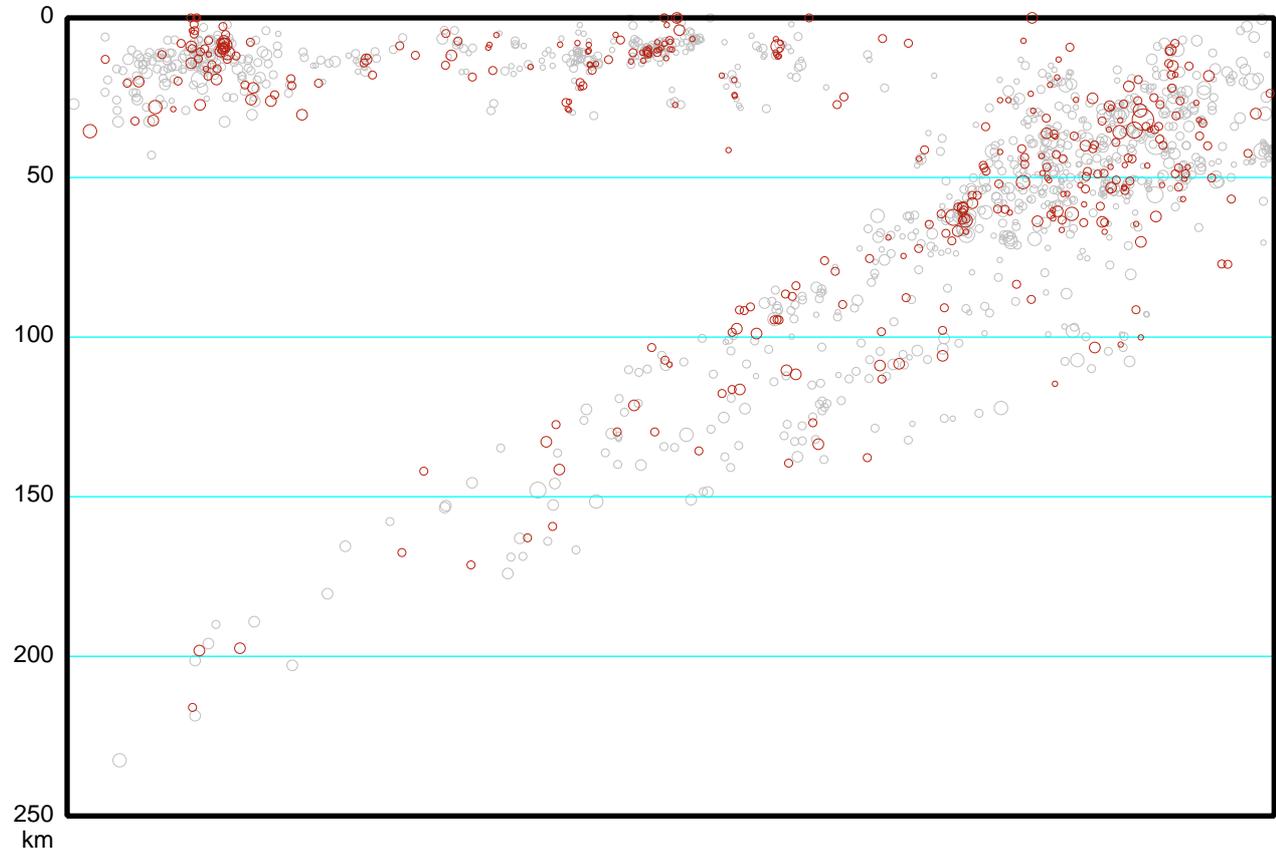
24日23時15分、青森県東方沖の地震(M5.1、深さ32km)により、函館市で震度2を観測したほか、七飯町、木古内町で震度1を観測しました。

2018年8月1日 ~ 2018年8月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。  
記号Mはマグニチュードを表します。  
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

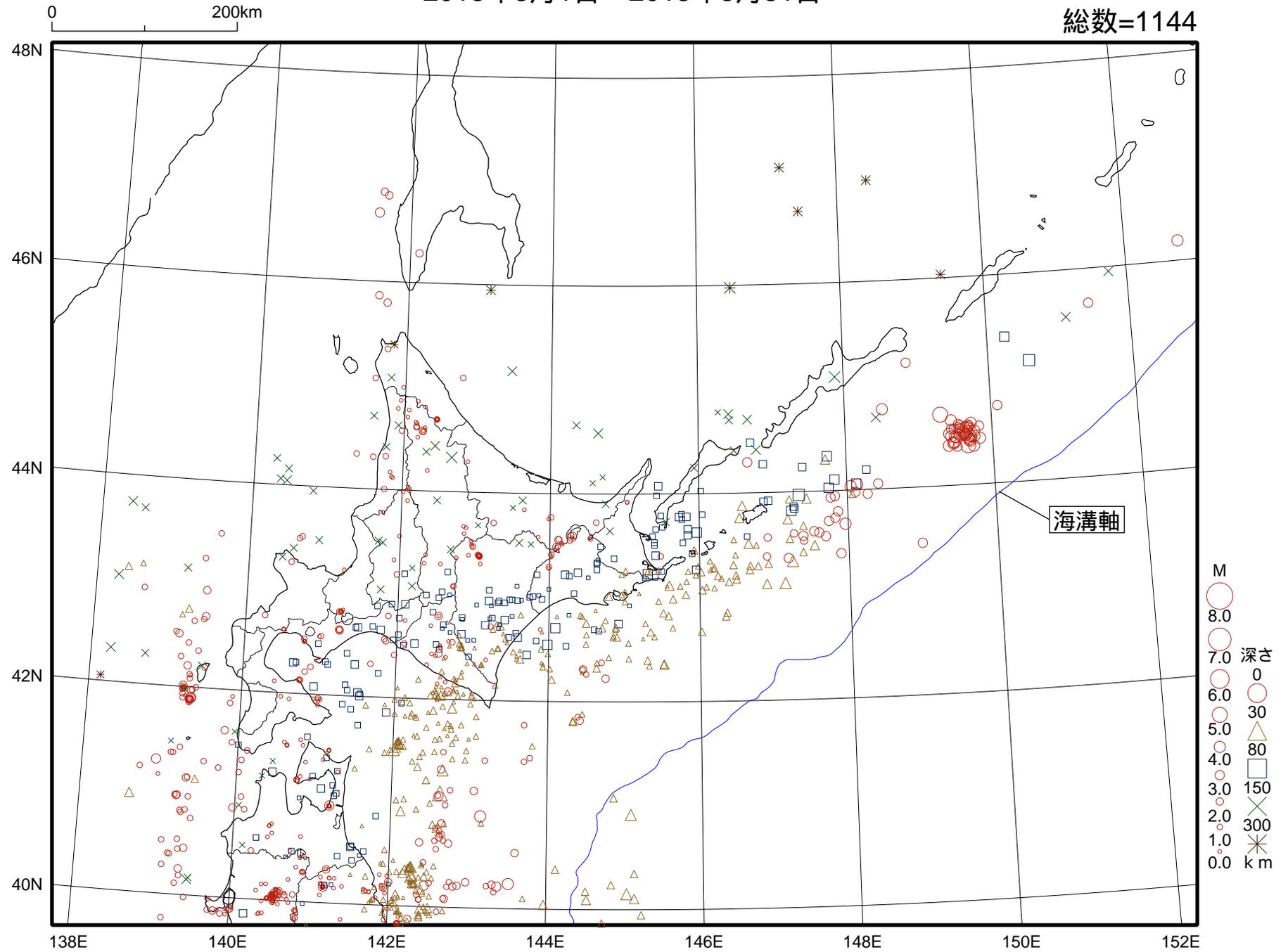
# 北海道の地震活動図

2018年8月1日 ~ 2018年8月31日

札幌管区気象台

総数=1144

震央分布図



## 震度 1 以上を観測した地震の表 (2018年8月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 ( N )	東経 ( E )	深さ ( km )	規模 ( M )
2018年 8月 5日 渡島地方	17時44分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (11) 函館市新浜町 * (08)	41 ° 29.8 N	142 ° 00.7 E	62 km	M4.2
2018年 8月 8日 渡島地方	00時12分 震度 1	三陸沖 函館市泊町 * (10)	37 ° 54.9 N	143 ° 56.3 E	50 km	M5.6
2018年 8月23日 渡島地方	00時06分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (18) 函館市新浜町 * (18) 函館市美原 (09) 函館市日ノ浜町 * (11)	41 ° 18.9 N	142 ° 39.0 E	35 km	M4.9
2018年 8月24日 渡島地方	23時15分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (17) 函館市新浜町 * (22) 函館市美原 (08) 函館市日ノ浜町 * (13)	41 ° 05.6 N	142 ° 37.5 E	32 km	M5.1
2018年 8月25日 渡島地方	06時30分 震度 1	岩手県沖 函館市泊町 * (06)	40 ° 22.5 N	142 ° 16.9 E	40 km	M4.2
2018年 8月31日 渡島地方	00時38分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (05)	40 ° 53.0 N	143 ° 08.9 E	8 km	M4.2

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

\*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

セントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

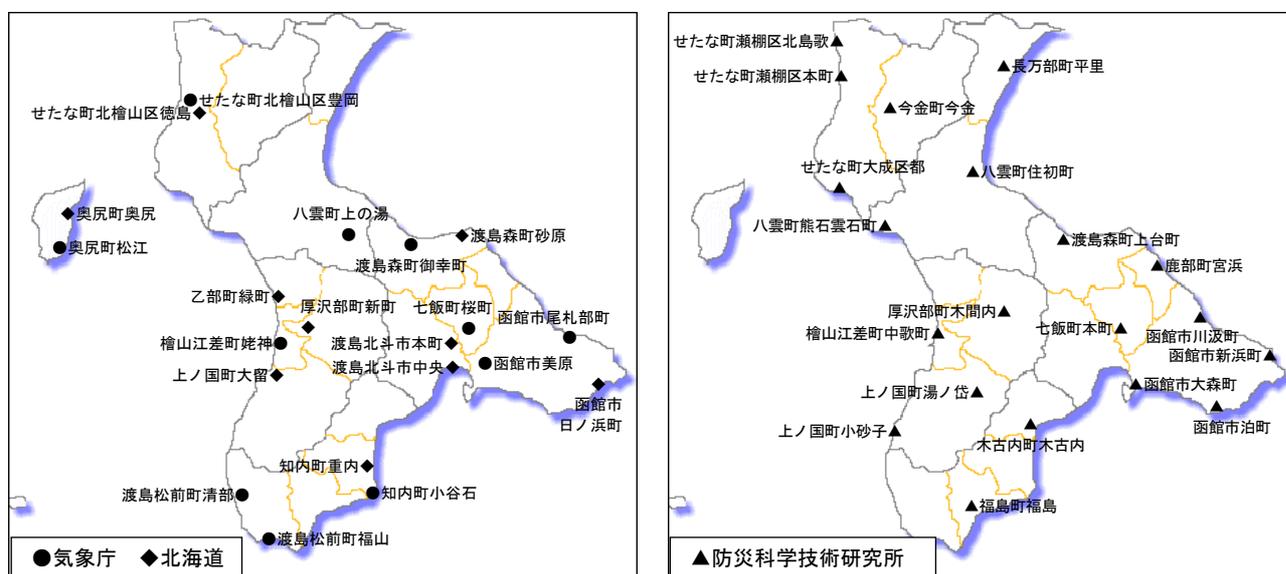
( )内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

### 計測震度と震度階級の関係

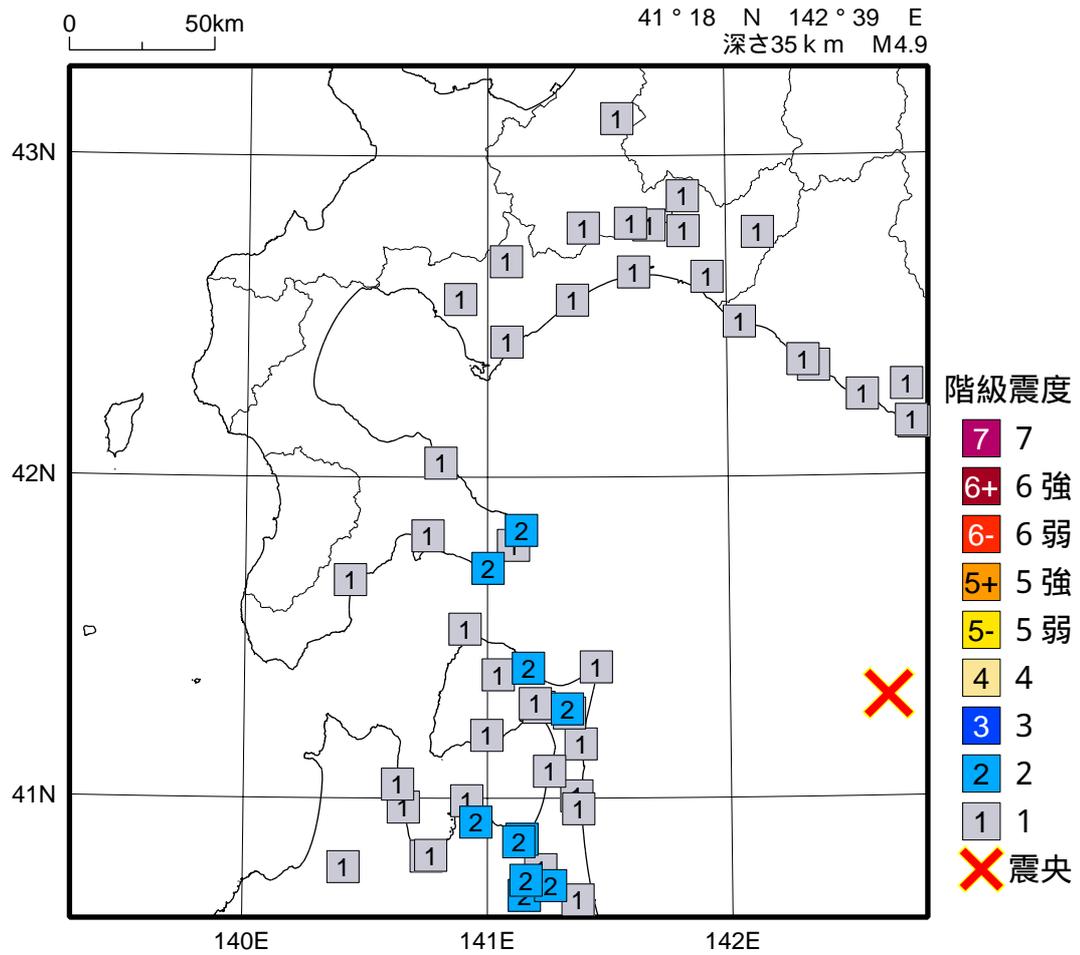
計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

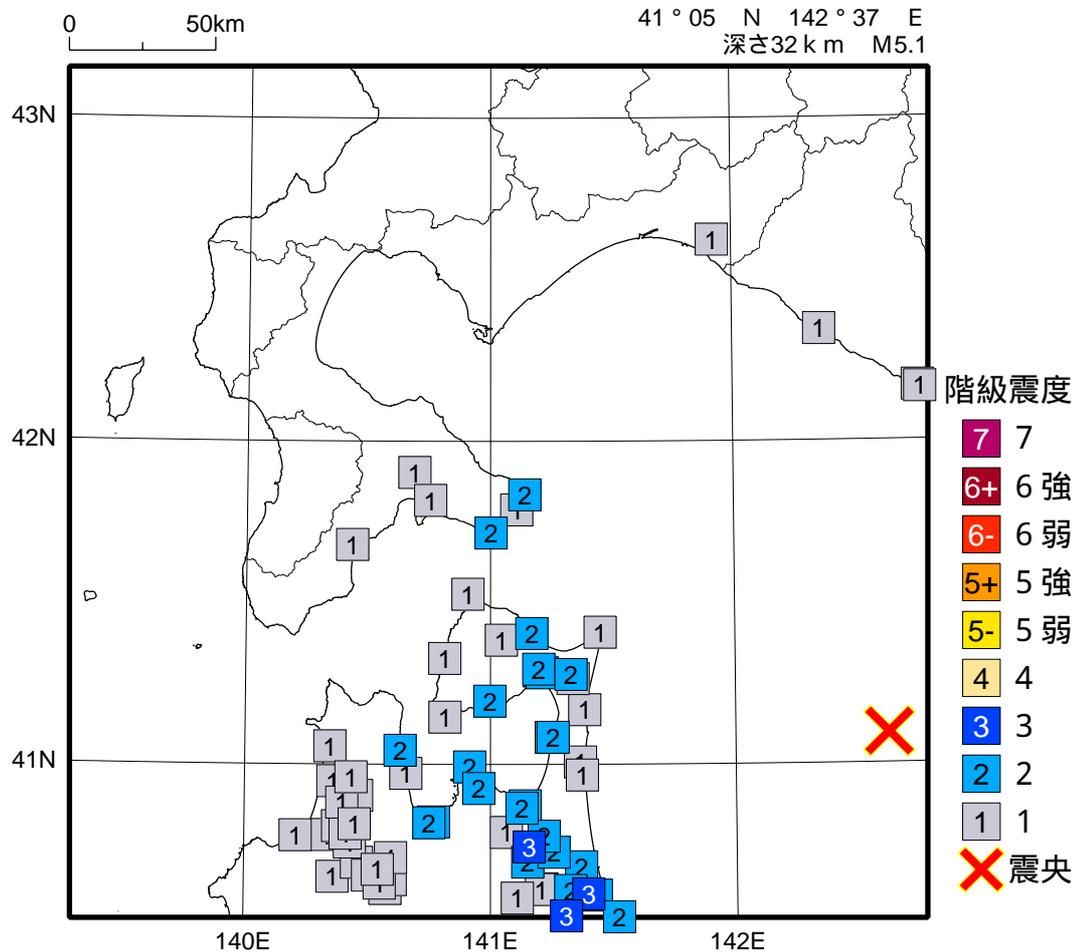


渡島・檜山地方の震度観測点配置図

2018年 8月23日00時06分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2018年 8月24日23時15分 青森県東方沖の地震の震度分布図



## 【防災メモ】

# ～遠地地震・津波について～

国外で発生した地震を「遠地地震」といい、この遠地地震に伴う津波を「遠地津波」と呼んでいます。

気象庁では、国外でマグニチュード7.0以上の地震、または都市部など著しい被害が発生する可能性がある地域で規模の大きな地震が発生した場合に、地震発生から概ね30分以内に「遠地地震に関する情報」を発表し、地震の発生時刻、発生場所（震源）およびその規模（マグニチュード）、日本や国外への津波の影響をお知らせしています(図1)。

過去には南米をはじめ、アラスカやアリューシャン列島、千島列島や西太平洋で発生した地震により、津波が日本に到達しています。1960年(昭和35年)の「チリ地震津波」では、チリ中部近海で地震が発生してから約22時間半後に最初の波が日本に到達し、北海道では4mを超える津波が来襲して被害が出ました(写真1・2)。



図1 遠地地震に関する情報の例(気象庁HP)  
[https://www.jma.go.jp/jp/quake/quake\\_foreign\\_index.html](https://www.jma.go.jp/jp/quake/quake_foreign_index.html)



写真1 1960年チリ地震での津波(浜中町榎町)  
(気象庁職員撮影)



写真2 1960年チリ地震での津波(浜中町霧多布)  
(霧多布航路標識事務所員撮影)

一般に津波は、その発生源(波源)から遠ざかると影響は小さくなりますが、非常に大きな津波の場合は、遙か遠くまで伝わって大きな被害をもたらすことがあります。また、遠くからやってくる津波は、途中の地形の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、津波が長時間継続するほか、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。さらに、近海で発生した津波と同様に遠地津波も海岸付近の地形の影響で高さが変化します。岬の先端やV字型の湾など、特殊な地形の場所では波が集中し、高い波となることがあるので特に注意が必要です。

気象庁は、遠地津波に対しても日本沿岸での高さを判断して、津波警報等を発表します。津波警報等が発表された場合は、遠く離れた外国で発生した地震・津波であっても決して油断せず、気象庁の発表する情報に留意して避難行動をとってください。